

採血後に起こりうる合併症について

平塚共済病院 採血センター

採血は病気の診断や病状の変化を知るうえで欠かすことのできない検査の手段です。多少の痛みは伴いますが、基本的には安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく、また軽症なものが多いとされています。

採血には細心の注意を払って行いますが、ごくまれに次のような症状が起こることがあります。

止血困難・皮下出血

止血の為に絆創膏を貼りますが、5～10分程度は **もま**ずに押さえてください。

十分な圧迫止血が出血・皮下出血への一番の対応法です。
血液を固まりにくくするお薬を内服している方は、更に長めにしっかり圧迫してください。

止血バンドをした場合、10分後にバンドを外してください。



もま ない！



おさ える！

神経損傷

採血後も手指へ拡がる痛み、痺れが持続する事があります。

1万から10万回に1回程度の割合で起こるとされています。これらの症状はまれに半年以上続くことがあります。大部分は特別な治療をしなくても、数週間以内に無くなります。

ご不明の点や疑問点などありましたら遠慮なく担当医または採血担当者にお尋ください。

